

スマートライフ

虫歯・歯周病治療、歯列矯正、インプラント手術… 歯科治療費「相場」知れば納得

時として高額になり、「相場」がわかりづらい歯科治療費。

健康への投資として納得できる治療を受けるため、費用の目安、治療前に確認すべきことなど患者として知っておきたい事柄を整理してみよう。

秋田新幹線の大曲駅から車で10分ほど。米どころ秋田の田園地帯に囲まれ、用水路沿いに看板を掲げるのは1998年開業のタケダ歯科クリニック（秋田県大仙市）。訪れた4月下旬、滅菌を徹底した手術室では、竹田浩人院長が女性患者にインプラント（人工歯根）治療を施していた。

インプラントは自分の歯を失った場合、あごの骨に人工歯根を埋め込み、その上に人工の上部構造（かぶせ物）を固定する治療法。入れ歯よりも食べ物を強くかむことができ、本物の歯に近い外観を保てることから近年、注目を集めている。

「割安」求め地方で治療

竹田院長は、インプラントで40年以上の臨床実績があるスイスのノーベル・バイオケア社の公認インストラクター。年間約100例のインプラント治療を手がけ、後進の指導にもあたる。治療に訪れる患者も地元在住者だけでなく、わざわざ東京から来る人もいる。その理由は、実績に加え「割安な治療費」だ。東京からは年間数十件の問い合わせがあるといい、治療を受ける際は術後ケアなどができるよう都内の歯科医院と提携体制も整えた。

東京都内に住む三橋貴代さん（仮名、50）は来月以降、東京の歯科医院の紹介を受け、インプラント手術を同クリニックで受ける予定だ。インプラントは健康保険がきかない自費治療で「都内で信頼できそうなところを調べたら、インプラントは上部構造も含めて1本40万から50万円だった」。

三橋さんは2本以上の手術を検討しているため、80万円以上の出費になってしまう。一方、タケダ歯科では「歯や骨の状態、使用材料にもよるが上部にかぶせるものも含め1本25万～35万円程度」（竹田院長）。往復の新幹線代や宿泊代を勘案してもまだ価格差が大きいと判断し、三橋さんはタケダ歯科での治療を決めた。

この差は何で生じるのか。決して意図的に材料費を低く抑えたり、治療で手を抜いたりしているわけではない。「もともと秋田県の物価水準などに合わせて価格設定をしている。土地代、人件費は都心に比べ安い」（竹田院長）。加えて、同クリニックは自営の歯科技工所を併設。材料供給コストを抑えて

いる。都心では土地代やビル賃料、人件費が高いうえ、技工所などを備えるスペースを確保することは難しく、歯科技工士の出張費などコスト高になりやすい。

45万円の価格差

インターネットサイト「インプラントナビ」を運営するITメディカル（東京・中央）は今年、全国406カ所の歯科医院を対象にインプラント治療費を調査。その結果、1本当たりの平均費用（上部構造を含む）は約34万4800円。調査結果で目を引くのは、平均費用よりもむしろ、その価格差だ。

最も安いところで約15万円、高いところでは約60万円とその差は45万円。自費診療なので歯科医院が自由に価格設定ができるうえ「インプラントは国内外に数多くの治療システムが存在するといわれ、使用機器や材質、医師の技量や個人の歯の状態によって大きな違いが出てくる」（ITメディカル）。例えばパソコンなら同時期に発売した同メーカーの同スペック機種を比較することはできるが、インプラントは「メーカーや機能、スペックが全く異なるものの費用を比べることになり、単純に安ければいいというわけではない」（同社）。

また、都市部は全体的に平均治療費

インプラント これだけ違う治療費

費用	件数
1本あたり、上部構造を含む	
15万円～20万円未満	11
20万円～25万円未満	23
25万円～30万円未満	69
30万円～35万円未満	114
35万円～40万円未満	81
40万円～45万円未満	67
45万円～50万円未満	26
50万円～55万円未満	9
55万円～60万円未満	5
60万円以上	1

インターネットサイト「インプラントナビ」を運営するITメディカルが2008年5月に調査（有効対象数406件）。1歯欠損の場合で、標準的なセラミック冠を上部構造にする治療をモデルケースとし、インプラント1歯を完成させる税抜き費用の目安を算出。CT検査、特殊な麻酔などの追加費用やメンテナンス費用はのぞく

が高めになる傾向があるが、後発でインプラント治療を始めたところは安い価格設定の医院もあり、地域によっては価格競争が起きていることもうかがえる。

歯科治療費の「相場」が見えづらなのはインプラントに限った話ではない。兵庫県歯科医師、田尾耕太郎氏は自身が運営するサイト「歯チャンネル」内に2年前から「歯科相談室」を設けている。同コーナーでは現役の歯科医

高額になりがちなインプラント治療だが、秋田県にあるタケダ歯科クリニックでは土地代や人件費が安いいため、東京より患者負担が少なく済むという



師が無料相談に応じるが、現在までに治療費に関するものだけで累計150件超の質問が寄せられたという。ざっと目を通すと以下のようなものだ。

- ・「親知らずの治療費が1万7700円かかった。高くないですか」
- ・「セラミックの治療費が、親が通院している医院の2倍するのですが」
- ・「治療の最後にいきなり『セラミックで2本30万円』と言われて困っている」



医療費控除で負担軽減

健康保険がきかない自由診療などで歯の治療費が高額になった場合、金額や治療方法によっては所得税の医療費控除を受けることができる。医療費控除は本人と家族など生計をひとつにしている親族が、前の年に払った医療費を所得から差し引くことができる制度だ。ただし、医療費が一定金額を超えることが条件だ。

医療費控除の対象には保険診療だけでなく、自由診療も含まれる。しかし、治療目的であることが大前提だ。例えば、美容目的の「ホワイトニング」などは医療費控除の対象外。歯列矯正は子どもの場合は発育や健康上必要と判断され、原則として控除対象として認められている。税理士でファイナンシャル

プランナーの大黒崇徳氏によると「虫歯や歯槽のう漏の治療、親知らずの抜歯、金歯、クラウン、入れ歯、インプラントなどは一般的に控除対象になる」という。

控除できる金額は1年間の治療費のうち10万円を超えた部分（所得が200万円未満の人はその5%）。その金額を給料から差し引いた分を課税所得として申告する。ただし、保険金などで補てんされた金額は控除対象にならない。

医療費控除は自分で確定申告をする必要があるため、歯科医院の領収書を保管しておく必要がある。通院のための交通費も対象になるので、「日時や経路などをメモで残しておくこともポイントだ」（大黒氏）。

田尾氏は「症状や治療方法を聞くと、妥当な金額であることが多い」と話す。それでも患者が治療費に対して疑心暗鬼になることが問題と言え。その理由は「治療に個人差があることがなかなか理解されていない」（田尾氏）ためだ。歯の状態によって治療方法や検査内容が異なることが多く、他人の治療費と同列に比べることは難しい。同じ虫歯の保険治療でも、かぶせ物（クラウン）をする治療では通常、前歯の方が数千円高くなる。

医師の説明不足にも一因

健康保険が適用されない自費治療では、自己負担は当然高くなるが、自費診療を勧められると「高いカネをとられる」という防衛心が働いてしまうこともしばしばだ。だが、田尾氏は「日本は欧米に比べ非常に安く保険治療が受けられるものの、決められた材料、手順のなかでしか治療ができない。場合によっては十分な治療が受けられないことがある」と語る。

もちろん、医師側の説明不足にも患者とすれ違う一因がある。保険治療と自費治療の違い、治療法の違いによる長所と短所など、あいまいな説明に終始している歯科医師がいるのも事実。

「診察台の上で口を開けたまま、治療による値段の違いを説明されても判断できない」（神奈川県30代男性）

最近インターネットのホームページで治療費を公開する歯科医も増えてきたが、料金体系がバラバラでかえって混乱を招くケースもある。例えば歯列矯正。「基本料金+調整料」というところもあれば「総額いくら」という医院も。インプラントでは「1本いくら」の表示のみで、上部構造が含まれるかどうかわからないところもある。

患者側にも事前に説明を求め、十分に納得してから治療を始める姿勢が求められる。田尾氏は「聞きづらいが、難しい治療ならこれまでの治療実績を尋ねてもいい。トラブルを防ぐためには、治療後の保証期間を確認することも大切」と助言する。